

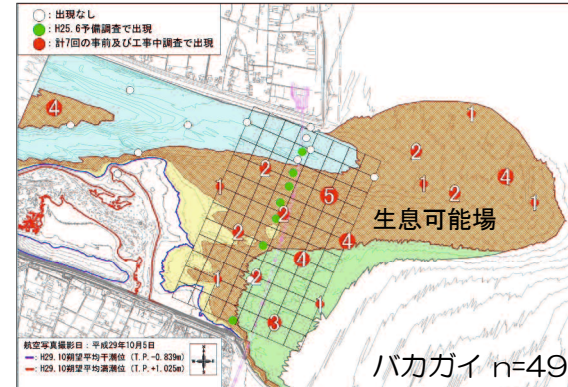
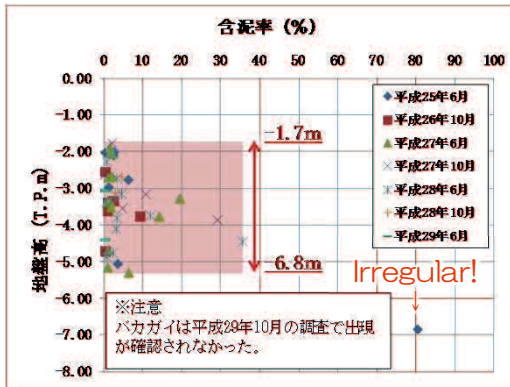
# ■ 浚渫の影響評価 ～ハビタット区分1の指標種のモデル化～



区分1の指標種のモデル化は、区分1が地盤高に関係なく砂質であることから、地盤高のみで生息可能場の予測を行った。

## バカガイ n=49

- T.P.-6.8m~-1.7mに出現
- 区分1に対して約88.6%の生息範囲
- 予測した生息可能場での出現数は38地点

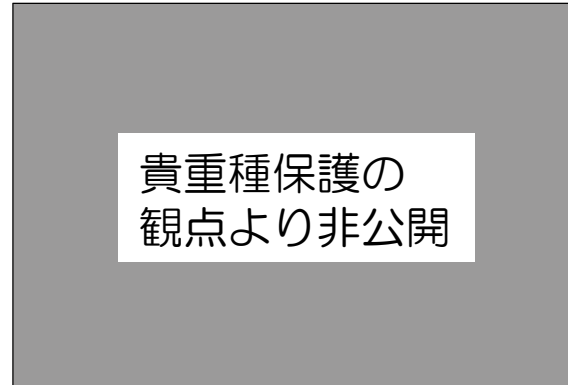
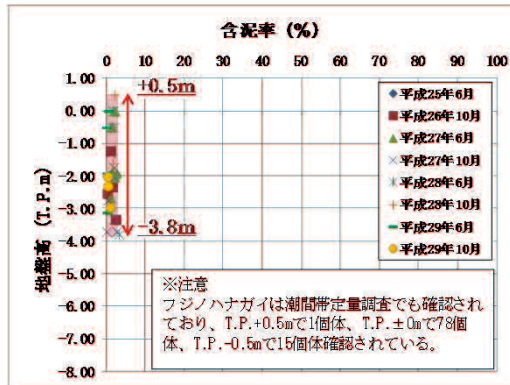


※ハビタット区分1の範囲から各種が出現した地盤高の範囲を抽出

- ①区分1の面積 : 1,702,033m<sup>2</sup>
- ②生息可能場面積 : 1,507,704m<sup>2</sup>
- ※区分1に対して88.6%

## フジノハナガイ n=45

- T.P.±0.5m~-3.8mに出現
- 区分1に対して約59.6%の生息範囲
- 予測した生息可能場での出現数は25地点

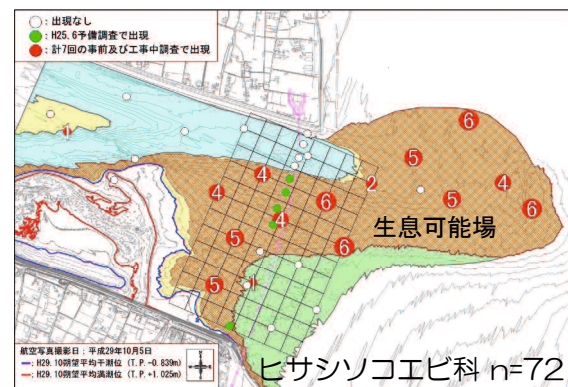
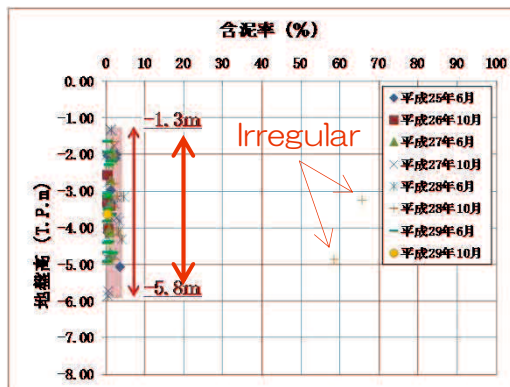


貴重種保護の観点より非公開

- ①区分1の面積 : 1,702,033m<sup>2</sup>
- ②生息可能場面積 : 1,014,050m<sup>2</sup>
- ※区分1に対して59.6%

## ヒサシソコエビ科 n=72

- T.P.-5.8m~-1.3mに出現
- 区分1に対して約90.4%の生息範囲
- 予測した生息可能場での出現数は67地点



- ①区分1の面積 : 1,702,033m<sup>2</sup>
- ②生息可能場面積 : 1,538,058m<sup>2</sup>
- ※区分1に対して90.4%

